

## 平成 31 年度第 1 回印西市地域公共交通会議 会議録

開 催 日 時 平成31年4月11日（木）午後1時30分から  
開 催 場 所 印西市役所会議棟2階204会議室  
出 席 者 酒井和広会長、佐藤信之副会長、市東浩美委員、豊田裕子委員、茨木隆郎委員、  
豊田実委員、大三川伊津雄委員、織原拯委員、加藤弘正委員、浦川真一委員、  
三上達也委員、徳永敬委員（代理 徳永様）、石井隆委員、和田賢太郎委員、  
岩崎員幸委員、篠塚義洋委員、川俣好彦委員（代理 池田様）、飯塚孝廣委員  
（代理 南様）、坂口篤委員、松本直範委員、森原大輔委員（代理 宇部様）、  
銅達夫委員、増田崇委員、川嶋一郎委員、染谷豊委員  
欠 席 者 永田治夫委員、菅野八重子委員、成田斉委員  
事 務 局 交通政策課 鈴木課長、渡邊副主幹、鈴木係長、阿部主査、成田主査  
傍 聴 者 4名

### 次 第

- 1 開会
- 2 新委員の紹介
- 3 会長挨拶
- 4 会議録署名委員の指名
- 5 協議事項
  - (1) 印西市地域公共交通網形成計画の策定について
  - (2) 交通不便地域での実証運行について
- 6 その他
- 7 閉会

### 会 議 録（ 要 約 ）

## 1 開会

(事務局) ただいまから、平成31年度第1回印西市地域公共交通会議を始めさせていただきます。

## 2 新委員の紹介

(事務局) それでは次第の2、新委員紹介に移らせていただきます。

今回の会議から新たに加わった5名の委員紹介

人事異動により交代となった3名の委員紹介

事務局の交通政策課職員5名の自己紹介

### 出欠の報告

(事務局) 議事に入ります前に、本日の委員の出欠につきまして、ご報告いたします。

No. 7菅野八重子委員、No. 24成田斉委員におかれましては、本日欠席でございます。

また、代理出席のご報告といたしまして、No. 12 徳永敬委員の代理として徳永様、No. 17 川俣好彦委員の代理として池田様、No. 18 飯塚孝廣委員の代理として南様、No. 21 森原大輔委員の代理として宇部様にご出席いただいております。

本日の出席委員は、28名中25名で、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第3項により成立いたしますことをご報告いたします。

(事務局) また、本日の会議につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第6項の規定に基づき、公開とさせていただきます。本日の会議においては、傍聴の申し出がありますので、傍聴者を入室させていただきたいと思っております。

### 【 傍 聴 者 入 室 】

(事務局) また、本日の会議でございますが、会議録作成のため、録音させていただきますので予めご了解ください。

## 3 会長挨拶

(事務局) 続きまして、会長挨拶に移ります。酒井会長、お願いいたします。

### 【 会 長 挨 拶 】

(事務局) それでは、協議事項に入らせていただきますが、議事進行につきましては、酒井会長にお願いいたします。

#### 4 会議録署名委員の指名

(会 長) それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。協議事項に入る前に、次第の4といたしまして、会議録署名委員の指名をいたします。本日の会議の会議録署名委員につきましては、加藤委員を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

#### 5 協議事項

(会 長) それでは、次第の5、協議事項に入ります。

##### (1) 印西市地域公共交通網形成計画の策定について

(会 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 協議事項(1) 印西市地域公共交通網形成計画の策定について、ご説明いたします。この協議事項は、昨年12月にご参加いただいた皆様には、既にご説明した内容でございまして、そのご承認を頂いた上で、昨年12月からこの3月までの間に、国庫補助金の要望、市の予算編成、法定協議会にするため、本会議の設置要綱改正等の準備を進めてまいりました。その結果、国土交通省からは、印西市地域公共交通網形成計画の策定をするための補助金ということで内示をいただき、この会議を経て来週には補助金の申請も予定しているという形で進んでいるところです。本日は新しい法定協議会として、「印西市地域公共交通網形成計画の策定について」、改めてご承認をいただきたいと考えております。

##### 【資料1 事務局説明】

(会 長) 事務局から(1)についてご説明がありました。この件につきまして、ご質問、ご意見等ございますか。

(委 員) 最近雑誌などで話題になっているバスドライバーの不足がひとつ重要になってくるのではないかという気がするのですが、印西市においてもバスドライバーの高齢化、事故等についてもテーマとして各バス会社から要望等を受けるということも必要なのかなと思います。

(委 員) 交通網形成計画は、公共交通の「ビジョン」「マスタープラン」であるという話があったのですが、「マスタープラン」というのは異論ありませんが、「ビジョン」というのはこの場でつくるものなのかという素朴な疑問がある。「ビジョン」は市長や議会で示してもらいたいと思う。

また、最終的な計画の目標が見えてこない。目標として考えうるものは、利用者の増加、交通不便地域の解消、輸送の効率性、つまり競合路線を整理して、より利用者の利便性を高めていこうと。それから出ていなかったのが行政経費。補助路線なりコミュニティーバスに対してかなり支出しているわけで、こういった行政経費削減の話まで進むのか

どうか。こういった話が予め出てこないと審議できないと思います。

整理しますと、市長なり議会なりで「ビジョン」を定義していただきたい。それから具体的にこの会で審議する計画と目標はどこに重点をおくのか。案として示していただきたいと思います。

(事務局) ありがとうございます。「ビジョン」・「マスタープラン」ですが、国の方でも網形成計画とはこういうものだと、分かり易く説明するために使っている用語として、使わせていただいております。

目標については、計画の方向性と一致すると思いますが、印西市の公共交通は、難しいと思います。市街地がいくつもあり、人の流動も市内外の様々な方向にある。人口が増えているニュータウンもあれば、人口が減っている交通不便地域もある。こういう場合には、いきなり目標を決めるのではなく、まずはアンケート等の調査をしっかりと行い、その中で課題をしっかりと把握するべきと考えています。委員のご質問の回答になるかわかりませんが、まずは調査をしっかりと行い、問題を洗い出して、こうするべきだろうと決めて、そこで目標を設定し、これをクリアするためにやっつけていこうと、担当としては考えております。

(委員) なぜこういう意見を申し上げたかという資料がひな形そのまま、印西市ならではの課題の取り上げ方が見えてこないのです、申し上げさせていただきました。それから「コンパクトシティ」は、印西市では目標になるのでしょうか。

(事務局) 立地適正化の話かと思いますが、都市計画課が担当部署となっております。印西市はニュータウンを抱えており、すでに線引きされた中で、企業進出等が現在も進んでいる状況であり、すぐに立地適正化計画は作れないという判断がされております。網形成計画は、コンパクトシティと連動してやっていくことが、大事な柱の一つですが、印西市の場合には難しいということは国の方でもご理解いただいております。ただ、今後を考えて行く場合には、こういった視点も踏まえて話していただきたいと思いますね、と意見をいただいているところです。

(委員) 国が示してきたひな形をそのまま載せていた感じがしまして。急がず、今後色々と考えて行きましょう。

(会長) 他にご質問ご意見等ございますか。

(委員) 鎌ヶ谷市内のコミュニティーバスの運行のお手伝いをさせていただいています。その中で、既存のバス会社がポンチョクラスの7メートルのマイクロバスで従来走っていました。予算のない関係で、ワゴン車で運行を開始したところ、はじめ2台でやっていたのが3台になりました。現在はワゴン車を1台増やし、実質4台で運行しています。当初、走り方というのが問題じゃないかということでした。最初の5年間、あるいは10年近く、年間2万人~4万人くらいしか乗っていない、3台あわせてもそのくらいでした。それが、ワゴン車を増やし、尚且つ、路線の遅れを修正するためにもう1台予備車をお

いて、遅延してきたらもう1台の予備車が見切り発車で時刻通りに発車するという計画をしまして、現在、年13万人の方が乗っています。走り方だと思います。小さな車で狭い道をグルグル走るということを提案させていただいて、尚且つ、ジョイントしながら走る。1台の車に乗ったまま1本向こうの道へ行くのに1時間もかかっていたのでは、使い勝手が良くない。それをある一定の場所で乗り継いでいく。乗り継ぎ券をもらって同じ100円で乗り継いで行くと1時間もかかったのが30分、40分で行けるといふ形になれば乗り継ぐ方がいい。13万人になったのは、高齢化もあり、免許返納のお年寄りが増えたということも加算されているかもしれませんが、走り方によって13万人が乗り出したということが実際にあるので、やはり走り方を計算するということがかなり必要なのではないかと思えます。

マイクロですとワゴン車1台、かなり安い予算で走ります。人件費はかかります。車両費は3分の1くらいで走り出せますので、その辺を考えると予算もどうにか足りるのではないかと。それから台数が増やせる。増やせば利便性が上がる。上がれば人が乗るといふことにつながるのではないかと考えています。

(会 長) ありがとうございます。今、ご紹介いただいたような事例も含めまして、先程事務局の方から紹介がありましたように、会議の中で、分科会、事業者会議ということもさせていただいておりますので、そういう非常にありがたい事例については、分科会の方でもご紹介いただけるようお願いいたします。事務局よろしいでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。

(会 長) 他にご質問等ございますか。先程、事務局の方からもご説明しましたとおり、昨年の12月に一度ご協議いただきまして、その後国等とのやり取り、年度明けましてからも詳しい情報等も入れ込んだものにつきまして、法定協議会として今一度ご承認いただきたいと考えております。よろしいでしょうか。

(会 長) 質疑がないようですので、協議事項(1)印西市地域公共交通網形成計画の策定について、ご異議ございませんでしょうか。

#### 【異議なしの声あり】

(会 長) 異議なしと認めます。

協議事項(1)印西市地域公共交通網形成計画の策定については協議が整いました。今後、事務局はスケジュール表に沿って、滞りなく事務等を進めるようにお願いします。

## (2)交通不便地域での実証運行について

(会 長) 続きます、協議事項(2)交通不便地域での実証運行について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) それでは、協議事項(2)交通不便地域での実証運行について、ご説明いたします。

### 【資料2 事務局説明】

(会 長) ただいま(2)について事務局より説明がございました。この件に関しまして、ご質問等ございますか。

(委 員) スワン号については、高齢者クラブ連合会の要望を受け入れて設置していただいているので、この件について感謝しています。  
デマンドを利用するターゲットの方が、電話をすることが億劫だと言う意見が、だいぶ出ました。本塾の支部長を集めて色々と意見を集約して聞いております。隣の人に頼む方がデマンドより頼みやすいという意見も結構出たらしいです。使いにくいということですね。隣のおじさん、おばさんに頼んだ方が、デマンドを使用するような高齢者にとっては、使いやすいということだと思います。そのあたりは、改善の余地があるのではないかと感じました。ぜひ、知恵を絞って、免許返納も増えていますし、特に本塾は高齢者社会ですから、市の方で差し伸べて欲しいと思います。ぜひ、デマンドを続けて欲しいです。よろしくお願いします。

(事務局) 宗像路線の方は着実に伸びています。だからといってこのまま何も手を打たない訳ではなく、そちらの方も何か手を打って、もっと乗降客確保に向けて動いていかなければいけないと思っています。特に本塾地区のデマンドですが、人口自体も少ない中での運行ですが、高齢の方にとっては、電話をかけて初めて乗るということに、試みるという、チャレンジするということが、なかなかできない様な状況だと思います。我々も高齢者の連合会の集まりへ行き、スワン号に一回乗ってみれば、意外に次もまたということもあるかと思しますので、そうしたPR活動をしていきたいなと思っています。当初の予定の中では、実証運行として数値的に見るのを12月から3月、ここで1回区切ろうと考えていましたので、これからも策を練っていかなければいけないのですが、この実証運行についての期間などについても、皆様からご意見をいただければと思います。

(委 員) スワン号については、意見を集約してほしいです。高齢者クラブ連合会も何かあれば協力は惜しみませんので、ぜひやりたいと思います。よろしくお願いします。

(委 員) 1ページの平成27年7月にアンケートをとって、アンケート結果によると34%、37%の世帯が困っており、多くの方が週に1回以上は利用するとなっていますが、どのくらいの方がそう答えているのか。スワン号はすごく利用者が少ないので、アンケートは大

体何人くらいにとって、どのくらいの方が週1回以上だったのか数値を教えてくださいなのですが。

(事務局) 本埜第二小学校周辺地域ですが、9地区あります。世帯数は今持ち合わせていないので。

(事務局) 区長さん経由でこの本埜第二小学校周辺地域の全世帯に配布している。回収率も高い。

(委員) 結構な数を調べて、結構な数の方が乗ると言っていて、やってみたらこういうことになったということですね。この先アンケートを取るにあたって、自分のところに通すと言われれば、通してほしいと言いますよね。アンケートのとり方をもう少し工夫しないと、期待した調査と結果にずれが出てくると思います。

(事務局) アンケートのとり方ももちろんですが、人間の心理として将来あれば乗りたいというのが大きいです。あった方がいいというのは自分の保障のために欲しいという傾向があります。そういうことではなく、本当に乗ってみようと思わせるような手段を我々が考えていかなければいけないとは思っています。

(委員) 「利用者が少なくなると本当に廃止になってしまいますよ」と、住民もなるべくバスに乗ろうというようにもっていかないと。

(事務局) アンケート結果として、やはり自分の保障のために欲しいというところも出てきますので、必ずしもアンケートが100パーセントというわけではないのですが、利用者数は少し落ち過ぎています。

(委員) あまりにも利用者が少ないので。わざわざいっぱい税金かけて通す理由というのが、隣の方に頼んで済むのなら、税金を掛ける必要がないと思います。

(委員) 隣の方も高齢化しますからね。

(事務局) バスを通す時になると「良かった」と言ってくれるのですが、いざ通ってみると乗らなかつたりということもありますし、1回も乗らないという方もいらっしゃいます。国の講習等に行きますと、1回もバスに乗ったことがない人は、高齢になっても絶対に乗らないと言われます。若い時にそういう交通を経験してないとなかなか乗りづらいのが現実です。ですから、高齢者の方が1回乗ってみて、「便利じゃないか」、「使えるじゃないか」ということを感じてもらえればいいかなと考えているところです。バスの方もできる限り、鉄道の方と接続しやすい様な形をとっていますので、そのバスを使って、買い物へ行ったり、医者へ行ったり、電車に乗って遠くへ出かけたりする交通手段として使っていただければ一番良いと思っているのですが、この4か月の実証運行の期間では、このような残念な結果でした。

(会 長) 今後、不便地域にアンケート等を取ります時には、委員の皆様からもご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(会 長) 他にご質問等ございますか。

(委 員) スワン号についてですが、最初の12月から利用者が段々減ってきておりまして、これ程少ないとは思わなかったです。広報で2回流しておりますが、利用者に知れ渡っていない面もあるかと思えます。

高齢者世帯にとって、電話が面倒、時間帯がわからない、利用方法がわからないという声もありました。このような少ない状況が続きますと、やはり時間帯の変更、ルートの変更とかを考えていかなければならないと思います。

(事務局) 高齢者の皆様に利用していただくのが一番良いと考えておりまして、その様な集まりなどに出向いて、一度乗ってみましょうと、活動していきたいと思っています。デマンドの利用方法についても、今後も分かりやすい書類等を作成し、周知していきたいと思っています。ルートの変更の方も今後、「どの位の時間帯がいいのか」「1ルートにかかる時間等」について分科会で揉んでいただきながら、より良い交通にしていきたいと思っています。

その辺が印西独自の課題だと思いますので、改善できるように努めていきたいと思っています。

(会 長) よろしいでしょうか。

(委 員) 本桠の方ですが、やはり時間帯が合わない、朝早い便で出かけても帰りが無い。希望としては本数を増やしてほしい。それからバス停、待つ場所が狭くて危ない。そういった声もあります。そういう部分の見直しも必要かなと思います。それで、利用者も少ないのではないかと思います。デマンドを上手く利用すればと思うのですが、なかなかとつきにくい所もあるので、その辺改善してもらえればと思います。

(事務局) その辺も含めまして、分科会の方で詳細について研究していただければと思いますので我々も一緒に考えていきたいと思っていますので、お願いします。

(委 員) 先日、回覧で宗像路線だよりを見ました。バスをよく使われる方には、わからないシーンだと思うのですが、宗像や本桠のお年寄りには、バスに乗るという意思がない。バスでどこかへ出かけるという意思が元々ないので、アンケートで「あったらいいな」と書くのですが、元々自家用車で出かけるので、子どもたちや近所の方が乗せてくれるまで待つという発想で、バスでどこかへ出かけるということがないと思います。周知徹底というのが難しいと思うのですが、どうやったら乗っていただけるのかということから始めないと、本数とか増便とかやっても、どこまでお年寄りが見ていて、「乗ってみよう」というきっかけになるものかなと。「乗りにくい、バス停まで歩けない」というのも、みんなで一緒に乗ってみよう！とか働きかけがないとなかなか増員には結びつかない



いと思います。

宗像路線は増えているというお話だったのですが、バス停をみると、もしかして「サバイバルゲーム」の利用者の方が多いのかなと思われるのですが。

学生さんたちも減っていますし、乗るターゲットもお年寄りしかないので、市の方でもお年寄りに「バスというものがあるんですよ」と。皆さん「ふれあいバス」も見たことなく、走っていないから、そういうものが存在することも認識がないので、バスが頻繁に走っているという状況が結びつかない。今後「乗ってください」だけでなく、どうしたら乗ってもらえるかも必要かと思います。

(事務局) ごもったもなご意見だと思います。分科会等とも相談しまして、何とか1回乗っていただけのように研究・検討させていただきたいと思います。よろしくお願いします。  
それから実証運行についてですが、期間を4か月として平成31年3月までを基本として、この数字をもって、これから検討、どんな改善をしていこうかと思っておりますが、皆様からも様々なご意見がありますが、期間的なことについては、皆様いかがでしょうか。

(委員) 予算の方は。

(事務局) 1年分確保させていただいております。しかし、はじめの実証運行の期間は、3月までということで、このデータをもとに動こうと説明等をさせていただいておりますが、今、お話を聞いていると、それだけでいいのかと不安もありまして、交通会議の皆様のご意見等もお聞きできればと思っております。

(会長) 今、事務局の方からございました、実証運行の継続について、先程から改善等について貴重なご意見があったかと思いますが、他に何かございますでしょうか。

(委員) 4か月という実績データが出てきて、見直しをしたらどうかという話も出ているわけですから、見直しをしたら良いと思います。本当なら最初の段階で無料ということで、事業をアピールすれば良かったかなと思うのですが。  
失敗事例などの参考にできる事例が沢山あるので、そういった事例を参考にしつつ、見直していく必要があるのではないかと。まだやめてしまうのではなくて、見直しをしながらやっていくべきかと思います。  
今、高齢化で引きこもり老人が増えているので、もっと高いレベルで政策目標を設定して、例えば高齢者が気軽に出かけられる街をつくるという政策目標を設定して、そのひとつのツールとして位置付けると。人数の問題ではなく、便利な形を模索しながら考えて行くと。もう少し見直ししつつ、続けていくべきだと思います。

(委員) 結構アイデアが出ていますので、ぜひ高齢者のためにできたものですから、色々やりたいと思うのですが。

(事務局) 分科会等で、細かな変更等、改善等を進めながら実証運行の方は継続をするということで考えてよろしいでしょうか。事務局としても方向付けが必要と考えますので、皆様の考えをお伺いできればと思います。

(会 長) 繰り返しになりますが、周知、PRに努めながら、色々なご意見を踏まえた上で、継続的な運行というご意見が多々あったかと思えます。こういったことを踏まえた上で、何か他にご意見等ございますでしょうか。

(会 長) それでは、事務局から提案がありました実証運行につきましては、引き続き運行しつつ改善点も多々あるというご指摘もいただいておりますので、分科会を中心に検討させていただきますまして、今年度の実証運行を引き続き継続するというごことでご異議ございませんでしょうか。

#### 【異議なしの声あり】

(会 長) ありがとうございます。異議なしと認めます。  
それでは、協議事項(2)交通不便地域での実証運行につきましては、協議が調いました。事務局の方では、ただいま委員の皆様からありましたご意見等を踏まえた上で、改善等に努めていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(会 長) 以上をもちまして、本日の協議はすべて終了いたしました。  
会議進行にご協力をいただき、ありがとうございました。  
それでは、進行を事務局にお返しします。

## 6 その他

(事務局) ありがとうございました。それでは続きまして、次第の6のその他でございます。  
印西市地域公共交通会議分科会名簿について事務局から説明  
印西市地域公共交通会議委員への報償の支払いについて事務局から説明

## 7 閉会

(事務局) それでは、以上をもちまして「平成31年度第1回印西市地域公共交通会議」を終了いたします。ありがとうございました。

平成31年度第1回印西市地域公共交通会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成31年4月26日

委員 加藤 弘正